

平成 28 年 12 月 23 日（金・祝）14:00～16:00

川崎市市民ミュージアム 研修室 2

平成 28 年度かながわの遺跡展 入門講座

旧石器時代の人なのに現代人？

神奈川県教育委員会

高屋敷飛鳥

I 旧石器時代ってどのような時代？

- ・縄文時代以前の最古の人類史の時代です。
土器が無く、打製石器を用いました。
※新石器時代…磨製石器と土器が出現し、農耕や牧畜が始まる時代
- ・時期区分
…前期・中期・後期の 3 時期区分が主流です。
前期旧石器時代…約 260 万年前～30 万年前
中期旧石器時代…約 30 万年前～4 万年前
後期旧石器時代…約 4 万年前～1 万 5 千年前
- ・ヒト
約 700 万年前にアフリカで誕生し、その後世界各地に拡散しました。
猿人、原人、旧人、新人（現生人類、ホモ・サピエンス）
- ・旧石器時代の人々
動物を狩猟し、植物を採集して生活する狩猟採集民でした。また、今のよう
に定住せず、定期的に住む場所を変える遊動民でもありました。
- ・当時の環境
今より寒冷な氷期にあたりました。年平均気温は今より約 4～6 度低く、
海面は約 100 m 低下しました。関東地方には今は絶滅してしまったナウマ
ンゾウやヤベオオツノジカなどの大型哺乳類が生息し、針葉樹と広葉樹が混
ざり合う植生でした。
- ・当時の主要な道具
石器、骨角器、木器などがあります。ただし、日本列島は酸性土壌のため、
骨や木などの有機質資料は分解されて残りません。よって旧石器時代の日本列
島で主に発見されるものは石器や礫になります。

・石器の基本的な用語・名称

剥片…母岩から剥がされた石片

石核…剥片を剥がした際に残る石のかたまり

接合資料…パズルのピースとピースがあわさるように、石器同士が接合した資料。石器の割れた順番がわかるため、製作技術を復元する上で非常に有効な資料となる。また、石器の空間分析を行う際にも、多くの情報を提供する。

・石器の基本的な作り方

①ハンマーで原石などを敲いて、剥片を剥離する。

②その剥片を加工して各種石器を作る。

・石器の種類

狩猟具：台形様石器、ナイフ形石器、尖頭器、細石刃 など

加工具：搔器、削器、彫器、錐器、敲石、磨石、台石 など

伐採具：石斧 など

II 旧石器時代の人は現代人？

I で旧石器時代の様相を見ると、現代の私達とはかなり違うように思うかもしれませんが、知識の蓄積や文化の違いなどによって、私達と異なる部分は多くありますが、思考方法や行動など、根本的な部分は私達現代人と共通しています。以下では、生物学的側面と行動学的側面に分けてその共通点をみていきましょう。

i 生物学的側面

私達現代人も（日本列島の）旧石器人も生物学的にはホモ・サピエンスに分類されます。

ホモ・サピエンス＝ヒト属ヒト種

ホモ・サピエンスは10数万年前にアフリカで誕生し、その後世界各地に拡散しました。日本列島へは、約4万年前に到達しました。

ii 行動学的側面

ホモ・サピエンスならではの能力には、以下の4つがあるとされています。

①抽象的思考を行う能力

②優れた計画能力

③行動上・経済活動上・技術上の発明能力

④象徴（シンボル）を用いて知識伝達をする能力

以上の能力によってなされたホモ・サピエンスならではの行動には、以下のようなものがあると考えられています（日本列島の場合）。これらの行動は、ホモ・サピエンスが残した遺跡でのみ見つかる証拠から、推測したものです。

<主に②による行動>

1 日本列島への到達

…日本列島で見つかる人骨は、現在のところ全てホモ・サピエンスであるため、旧人以前の人類は日本列島に到達できなかったか、到達しても長く存続できなかったと考えられます。

2 遺跡数の増加（人口増加を反映）

…日本列島全体で急激に遺跡数が増える時期（約3万8千年前、後期旧石器時代初頭）が、ホモ・サピエンスが日本列島に到達したと考えられる時期とほぼ重なります。

3 計画的な資源獲得・利用

- i キャッシュ（備蓄）…石器の材料となる原石やまだ使用可能な石器が一箇所にまとまって発見される事例があります。
- ii 海洋渡航 …海を渡らないと行くことのできない神津島で採れる黒曜石が、関東各地の遺跡で多数見つかっています。
- iii 遠隔地石材の調達 …遠隔地でしか採れない石材が、遺跡で出土しています。

<主に③による行動>

4 石器製作技術の発明・改良

- …石刃、細石刃、尖頭器せきじん さいせきじん せんとうきなど新しい技術で作られた石器が見つかっています。また、接合資料などによって、その製作技術を復元できます。
- ・石刃製作技術…両側縁が平行する縦長の剥片（石刃）を連続して剥離する技術
 - ・細石刃製作技術…極小の石刃（細石刃）を連続して剥離する技術
 - ・尖頭器製作技術…剥片を加工（平坦剥離）して槍先形の石器（尖頭器）を作る技術

5 石器の種類が多様化

…Iで記載したような多様な道具が確認されています。

6 石器の形の規格化

…石器の種類ごとに見ると、その形がどれも同じような形をしている場合があります。

7 調理技術の発明・改良

- ①石蒸し調理 …礫群^{れきぐん}という石蒸し調理に使用されたと考えられる遺構が、多数見つかっています。
- ②火の管理の向上 …石囲い炉が見つかっています。

8 皮革加工技術の発明

…皮なめしに使用されたとみられる搔器という石器が、各地の遺跡で出土しています。

9 新しい狩猟方法の発明

…三浦半島や静岡県など、太平洋沿岸の一部の地域^{おと あな}で陥し穴とみられる土坑が見つかっています。陥し穴は待ち伏せ猟（罟猟）か追い落とし猟に使用されたと考えられています。

10 地域的多様性

…地域ごとに石器に特色がみられます。

<主に④による行動>

11 象徴的な遺物

…実用品と考えづらい石器や、装飾品が見つかっています。

1～11以外にも、まだ知られていない現生人類ならではの行動があると考えられます。このように、生きていた時代や環境こそ違うものの、旧石器時代の人々は、生物学的にも行動学的にも現代の私達と同じ現代人（現生人類）であることがわかるのです。

<引用・参考文献>※図録に掲載していないもののみ、記載。

加藤晋平・鶴丸俊明 1991『図録・石器入門事典<先土器>』柏書房

神奈川県立埋蔵文化財センター1984『栗原中丸遺跡』

財団法人かながわ考古学財団 1996『宮ヶ瀬遺跡群VI』

財団法人かながわ考古学財団 1997『吉岡遺跡群IV』

堤隆 2009『ビジュアル版 旧石器時代ガイドブック』シリーズ「遺跡を学ぶ」別冊 02、新泉社

日本旧石器学会 2010『日本列島の旧石器時代遺跡—日本旧石器（先土器・岩宿）時代遺跡のデータベース—』

山崎真治 2015『島に生きた旧石器人・沖縄の洞穴遺跡と人骨化石』シリーズ「遺跡を学ぶ」104、新泉社

G.フロパーチェフ・E.ギリヤ（木村英明・木村アヤ子訳）2013『氷河期の極北に挑むホモ・サピエンス—マンモスハンターたちの暮らしと技—』、雄山閣

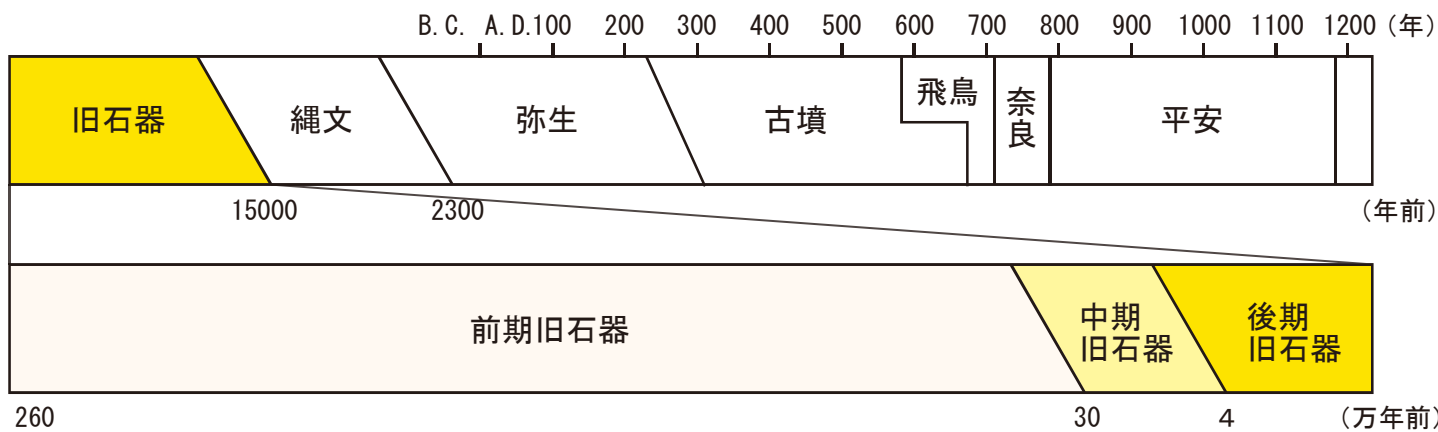


図 1 時期区分

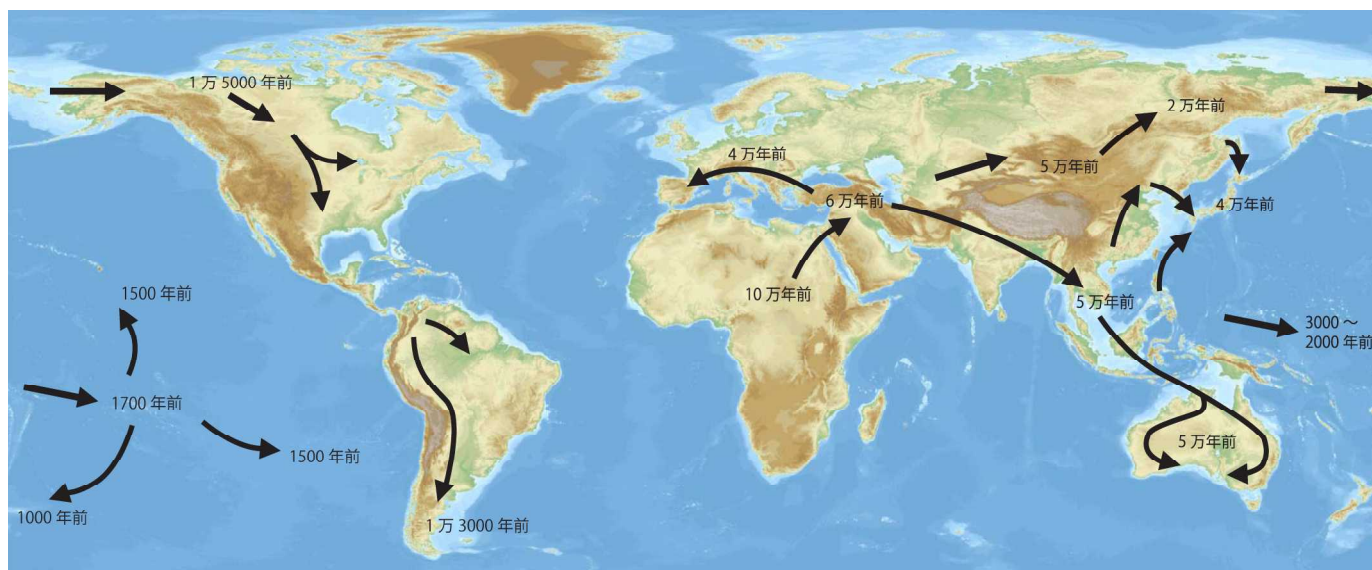


図 2 現生人類の拡散 (偉大なる旅)

※元図は NOAA National Geophysical Data Center の ETOPO1 データを使用



図 3 日本列島で発見されている人骨 (堤 2009)

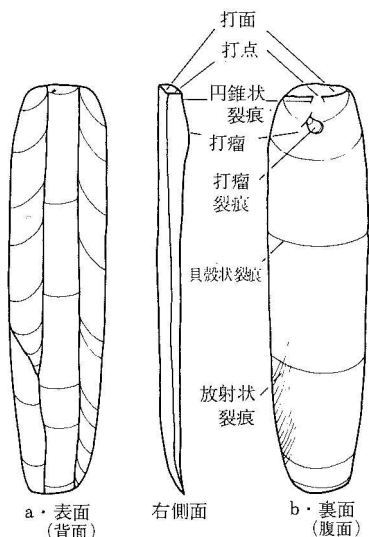


図 4 剥片各部分名称 (加藤・鶴丸 1991)

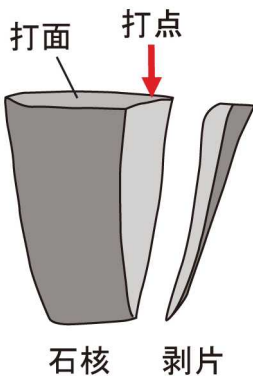


図 5 石器基本名称

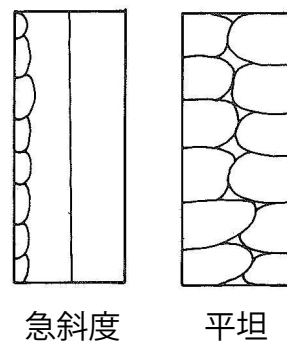


図 6 二次加工の種類 (加藤・鶴丸 1991)

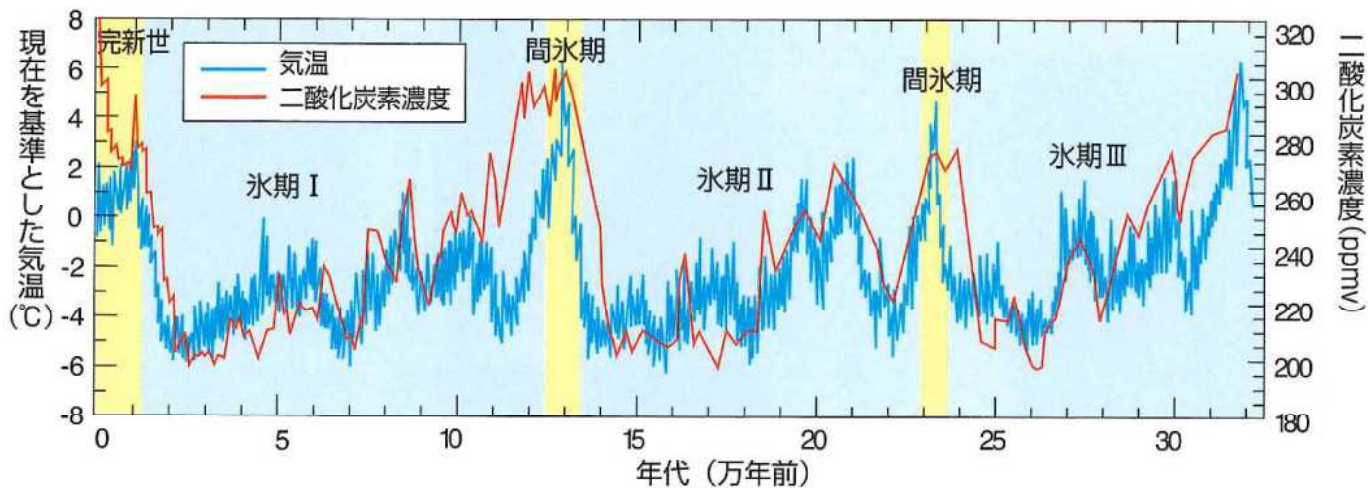


図 7 過去 32 万年間の環境変動データ (堤 2011※元データは国立極地研究所)

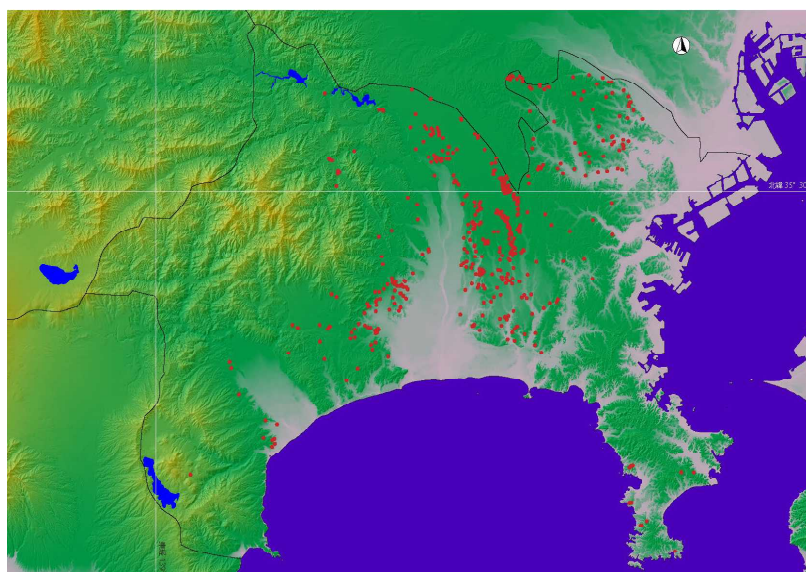


図 8 県内の旧石器時代遺跡分布 (日本旧石器学会 2010)

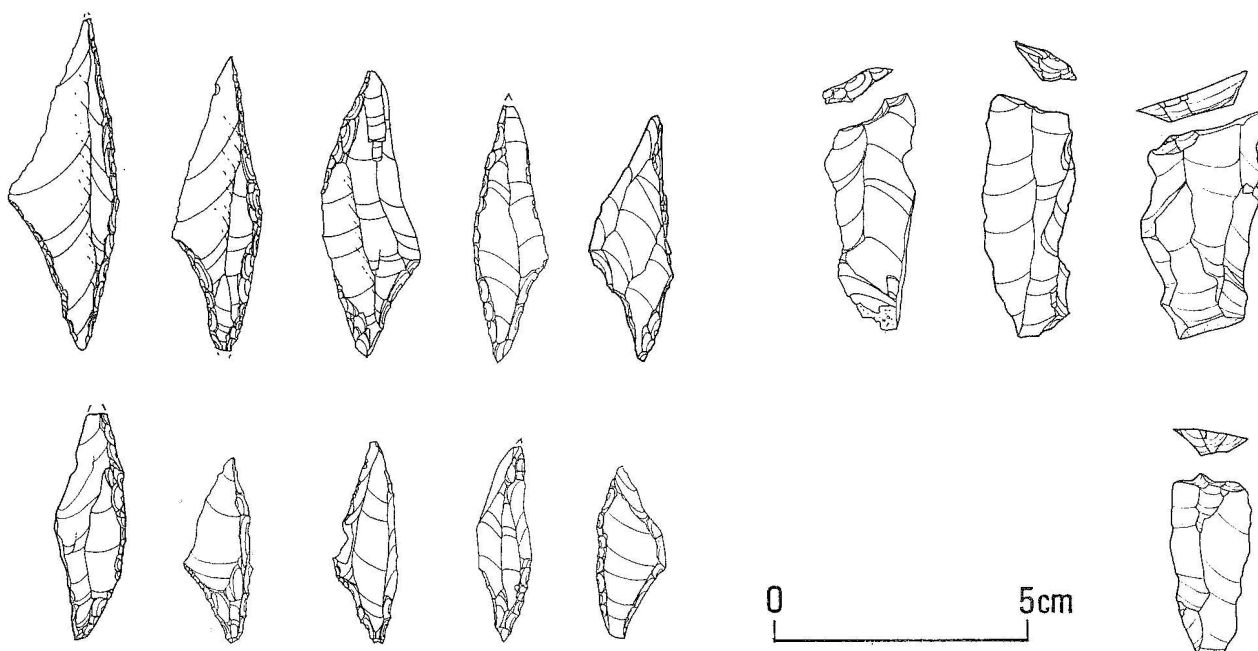


図 9 座間市栗原中丸遺跡出土ナイフ形石器 (神奈川県立埋蔵文化財センター 1984)

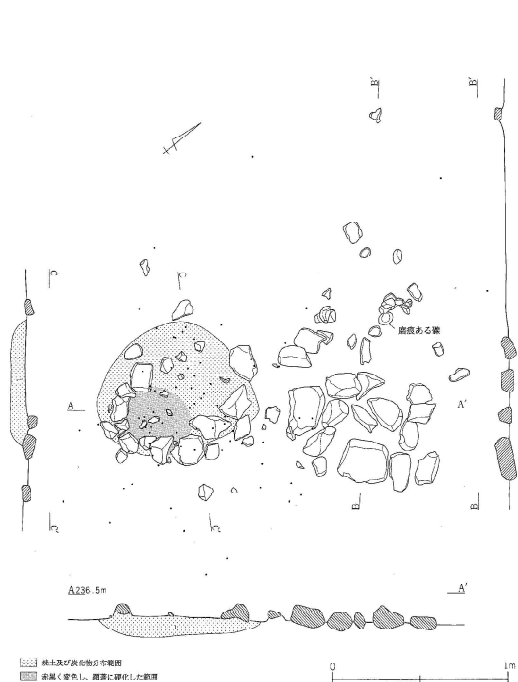


図10 愛甲群清川村宮ヶ瀬遺跡群
サザランケ遺跡石囲い炉
(財) かながわ考古学財団 1996)

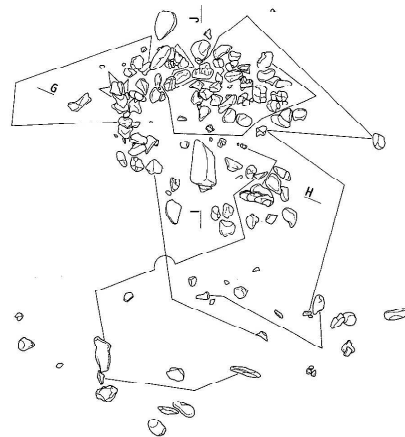
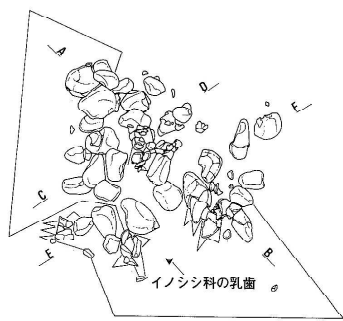


図11 綾瀬市吉岡遺跡群C区礫群
(財) かながわ考古学財団 1997)

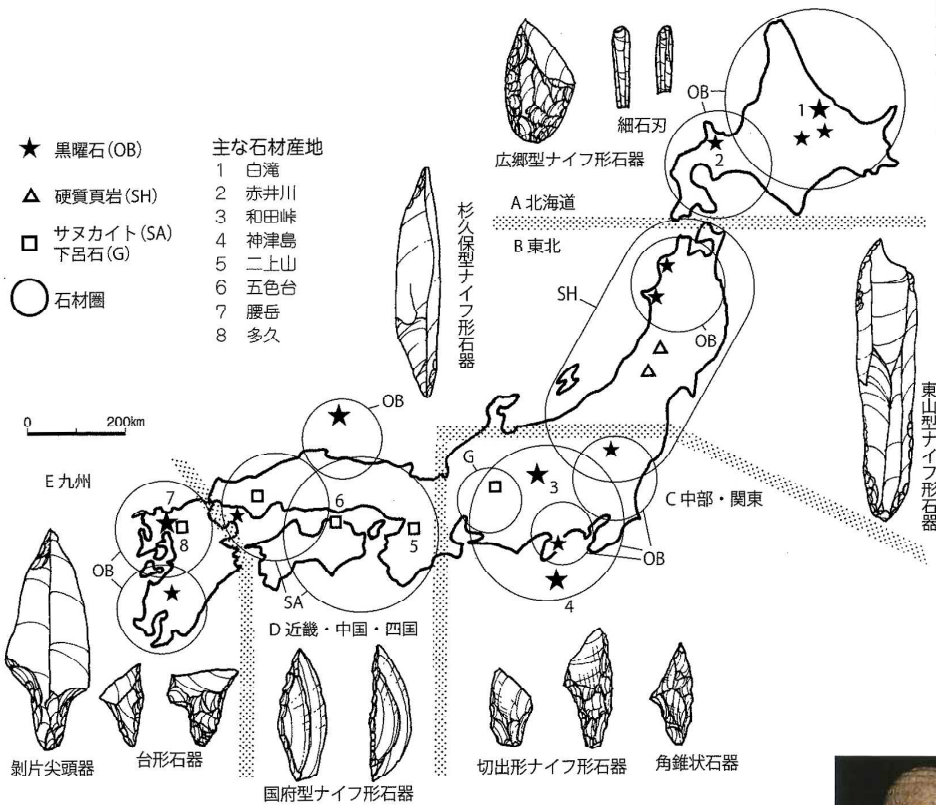


図12 後期旧石器時代後半期の狩猟具の地域性
(堤 2011)



図13 沖縄県サキタリ洞出土貝製ビーズ
(山崎 2015)

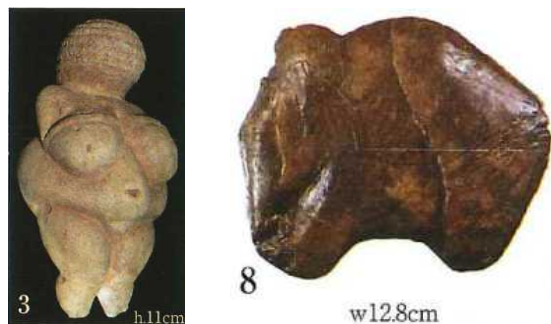


図14 オーストリアヴィッレンドルフ遺跡出土女性像 (左)、
チェコ プセドモスチ遺跡出土マンモス像 (右)
(G. フロパーチェフ・E. ギリヤ 2011)